

# 大会期間中の 都庁2020アクションプラン等の実施報告などについて

東京都

# 1.都庁2020アクションプランの取組について

- ▶ 都庁自らが取組む大会時の交通混雑緩和のための行動計画として「都庁2020アクションプラン」を策定、職員一人一人が取組を実施
- ▶ 作成プロセスも含め企業等に提示することで取組を推進、今後も災害時や大規模イベントなどでの事業継続に活用して頂くことが重要

## ◆都の取組と得られた知見

- ・ 都庁として大会時の交通混雑緩和のため、業務に関わる交通を洗い出し、人の流れ、物の流れについて、取組むべき項目等を定め、それぞれの取組を全庁で実施

⇒取組結果については、次項参照

- ・ 説明会等での「都庁2020アクションプラン」作成プロセスの提示や作成ツールの提供、個別コンサルティングによる支援等により企業の計画策定を促進

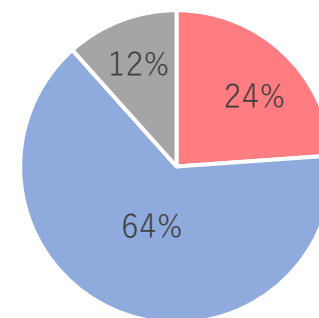
- ・ 取組を推進するには、経営層の理解、担当部門の設置など会社全体での取組が重要

⇒約4分の1の会社がアクションプランを作成

(企業ヒアリング結果)

作成プロセスが示されていたので作成しやすかった  
事務用品やゴミの搬出が関係するとは思わなかった  
経営層からのトップダウンで取組が進んだ

2020アクション策定について



■ 策定した ■ 策定しなかった ■ わからない

## ◆施策の考え方

- ・ 都庁2020アクションプランでの取組を、柔軟で多様な働き方、3Rの推進、災害等に活用できるよう関係機関、関係局に共有し推進
- ・ 大規模イベントや異常気象時の鉄道の計画運休などの対応に、今回のノウハウを紹介、企業の取組を促進

2020TDM推進プロジェクト個別コンサルティング等実施企業を対象 (2,837団体・企業)  
有効回答数: 155団体・企業

# 「都庁2020アクションプラン」の実施状況について

## <取組内容>

### テレワーク・オフピーク通勤の実施

- 原則毎日テレワークを実施
  - やむを得ず出勤する必要がある場合には、オフピーク通勤（8時から10時までの出勤を回避（8時以前、10時以降の始業に分散））を徹底
- ※ 感染症対策、東京2020大会関連業務、ライフラインの維持等の都民サービスに従事する場合などを除く

### 備品やコピー用紙等の納品時期の変更

本庁や出先事業所において、実施期間中、事務用品・コピー用紙を納品しない

### コピー用紙・ごみの削減

ペーパーレス化の推進、古紙等ごみの搬出前・後倒し、粗大ごみ回収時期の変更等により、ごみを削減（大会時の目標：ごみ削減約4割）

### 都庁発注工事の調整

施工中の道路、上下水道等の工事において、車両の現場出入り時間の調整や休工日の変更等を実施

### 庁有車利用の抑制

本庁や出先事業所で利用を控え、利用が必要な場合も高速道路等の利用を控える

## <実績>

実施期間 テレワーク・オフピーク通勤 2021年7月19日から9月5日まで  
その他 2021年7月19日から8月9日まで、8月24日から9月5日まで

期間中の**テレワーク実施率は約7割**  
（本庁における期間中の一日平均）

**納品回数を約4割削減**（昨年同時期と比較）  
約2,300回 ⇒ 約1,400回  
（うちコピー用紙納品数 約6,100箱 ⇒ 約3,500箱  
（ペーパーレスの推進や納品時期の前倒し等の実施）

**本庁のごみ搬出量を約4割削減**（昨年同時期と比較）  
（ペーパーレスの推進、水筒・マイカップの持参推奨、  
実施期間中は、古紙（新聞・雑誌・段ボール等）、  
シュレッダーごみ等を会議室等に一時保管）

期間中に施工中の**約8割の工事**で**取組を実施**  
（車両の搬入回数（資材搬入等）の減、車両の出入り時間の  
コアタイム外（早朝・夜間等）への振替、工事の一時休止等）

**本庁の庁有車利用を約4割削減**（昨年同時期と比較）  
（**オンライン会議**への変更、出張時期の変更）

## 2.都庁発注工事の調整に関する取組について

- 工事に伴う交通混雑を抑えるため、発注時期の調整や工事車両の削減等を実施
- 大規模イベント時や幹線道路の改修時等には、今回のノウハウ等を活用することが有効

### ◆都の取組及び大会を通して得た知見

- ・ 工事発注時期の調整、工事車両の出入り調整や夜間振替による車両数の削減、混雑を避けた走行ルート選択など具体的な取組を盛り込んだ方針を策定し、都庁各局に依頼（国土交通省においても直轄工事の調整方針を作成）
- ・ 都庁発注工事のうち、大会期間中は約8割が何らかの取組を実施  
(アンケート・ヒアリングより)  
道路管理者、交通管理者から依頼があったので従った（建設業団体）  
事前に交通規制の情報を入手し、確認していたためあまり影響はなかった（ゼネコン、建材卸等）  
維持管理作業に遅れが生じ苦情が増えた（都監督員）  
⇒ 事前の情報発信や、道路管理者・交通管理者からの協力要請が効果大
- ・ 都内工事の大部分が民間工事であり、民間工事のご協力が不可欠であり、70を超える業界団体等にご協力を依頼。業界団体を通じた周知により、個社から関連企業への情報提供もなされた。  
⇒ 業界団体のご協力により、取組が進んだ

### ◆施策の考え方

- ・ 大規模イベントや幹線道路の改修時等の計画作成、事前の情報提供等に今回のノウハウを活用
- ・ 感染拡大防止の観点から建設業においてもリモートワーク等が進む中、今後も働き方改革や生産性や安全性の向上のため、非接触・リモート型の働き方への転換、インフラ分野でのDXを推進  
(ICT活用工事の促進、工事現場の遠隔臨場等)

# 2020TDM推進プロジェクトとスムーズビズの取扱いについて（案）

- ◆2020TDM推進プロジェクトは2月末をもって終了
- ◆TDMの趣旨である混雑緩和の取組は引き続き進めていく
- ◆スムーズビズは、テレワーク、時差Biz、物流効率化などを柱に今後の施策を検討していく

<大会に向けてのスムーズビズ>



<今後のスムーズビズ検討案>



～参考～

(情報発信①)

推進プロジェクト登録企業（5万社、900団体）には、スムーズビズのメルマガとして情報発信

(情報発信②)

大会期間中の企業等の取組をスムーズビズHP等で公表

(アーカイブ)

2020TDM推進プロジェクトホームページを、スムーズビズHP・オリ局HPでアーカイブ化